

全科協ニュース

Japanese Council of Science Museums Newsletter

URL [http:// www.kahaku. go. jp/JCSM/index. html](http://www.kahaku.go.jp/JCSM/index.html)

全国科学博物館協議会 東京都台東区上野公園 国立科学博物館 ☎110 Tel.5814-9857・9858 Fax.5814-9898 平成8年11月15日発行(通巻第151号)

特集 開かれた親しまれる博物館づくりを目指して

鹿児島県立博物館

1. はじめに

鹿児島県立博物館は、大正3年の桜島大噴火の資料や記録を残すことを目的に、当時の県立図書館内に資料収集保管を行ったことにはじまります。昭和28年に正式に鹿児島県立博物館として発足し、昭和56年に県立図書館であった建物を改装して移転し、現在に至っています。

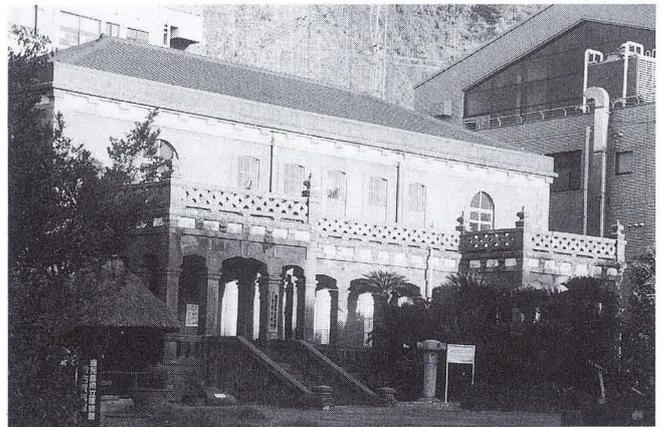
県立博物館は、鹿児島市の繁華街天文館から歩いて5分の極めて至便なところにあります。江戸時代に島津氏の平城であった鶴丸城跡にあり、鹿児島県歴史資料センター黎明館、鹿児島市立美術館等が並ぶ文化ゾーンの一隅に位置しています。

施設は本館展示室、文化センター4階のプラネタリウム、恐竜化石展示室及び考古資料館からなっています。

運営にあたっては、「あしたをひらく心豊かな人づくり」をすすめるため、郷土の豊かな特色ある自然との触れあいを通した生涯学習を推進するための中核施設として、人々に親しまれる開かれた博物館を目指して活動しています。



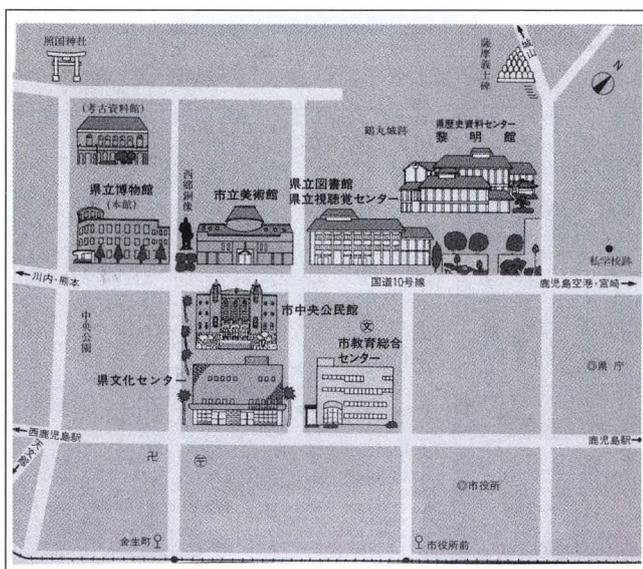
博物館本館



考古資料館



文化センター



博物館の守備範囲とその周辺

c) 移動博物館に伴う自然体験活動

<科学教室>

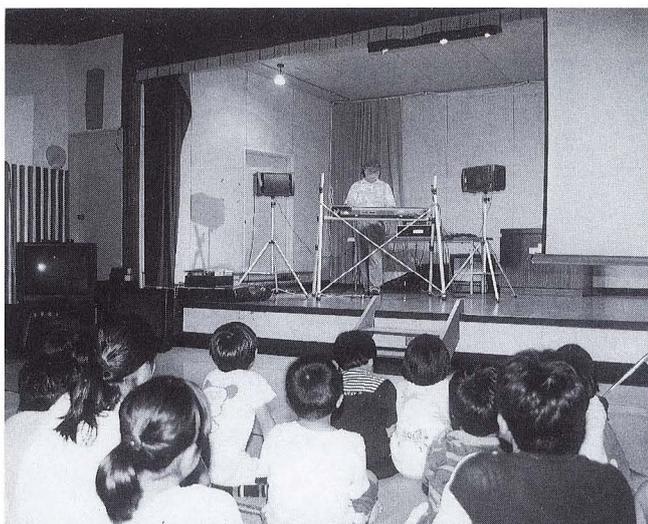
野の花をラミネートして、しおりやコースター等をつくる押し花アートを親子で体験学習してもらっています。

<野外自然観察会（路傍300種探索会）>

植物・昆虫・貝・岩石や野鳥の観察や採集、標本の作り方をとおして、自然の仕組みや人とのつながりを理解してもらっています。

<天体観望会（星空コンサート）>

移動式の天体望遠鏡を数台設置し、星座や惑星などについて観察してもらっています。また、星空の下でライブコンサートも実施しています。



星空コンサート風景写真

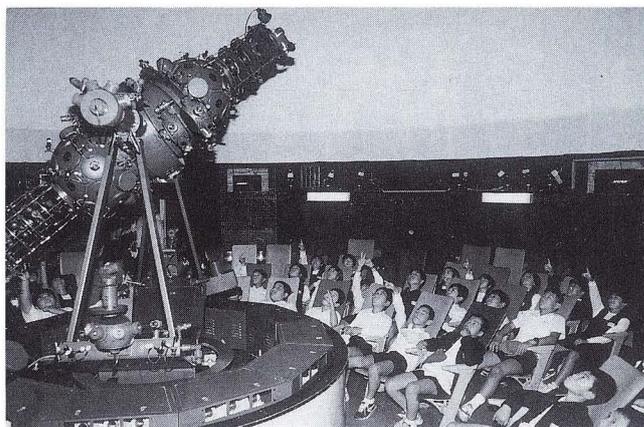
(2) 学習投影「プラネタリウム天文教室」

平成6・7年度の2年間にわたって、ドーム型プラネタリウムを活かした学習投影ソフトを開発作成しました。博物館の機能を学校教育に大いに活用してもらおうということで、学校と博物館をリンクさせた博物館づくりを具体的にしています。

その一つが「プラネタリウム天文教室」です。天文の学習を授業に利用してもらえるように学習指導要領にあわせ、学年に応じた投影ソフトを作成し、いつでもどの学年でも対応できるよう準備をしています。番組は「幼児投影」、「太陽と月（5年生用）」、「星の動き（6年生用）」、「地球と太陽系（中学生用）」、「天文学の歴史（高校生用）」及び「天体探

訪のポイント（生涯学習用）」の6本を作成し、多くの団体に利用されています。

いずれの投影ソフトも、館職員を中心に各学校教諭、専門家からなる番組作成委員会でシナリオからすべてを作り上げたものです。



学習投影風景写真

(3) 県民と共に調べる自然調査会

県民の方々と共に豊かな自然に接し、観察・調査研究することによって生態系を多面的に確認してもらおうという目的で企画し実施しています。

この調査会は「路傍300種に親しむ運動」（59年度）を発展させた事業で、昭和62年度から6年間は「調べよう鹿児島県自然」として、また平成4年度からは自然のつながりリサーチ事業のとして「路傍300種探索会」と「郷土の生態系調査会」を実施しています。

a) 路傍300種探索会

路傍300種（植物140種、昆虫90種、貝50種岩石20種を選択）の解説書をもとに、郷土の身近な生物や岩石の名前を調べるとともに、自然界の複雑なつながりを学習するための、県民一般を対象とした自然観察会で、植物・昆虫・貝・や岩石の観察や採集をし、名前を調べるとともに、標本の作り方や生物どうしのつながりなどについて学習する観察会です。毎年、3～5市町村で開催し、幼児から高齢者まで年齢層も多岐にわたり、年間500人から1000人の参加があります。



路傍300種探索会のようす

b) 郷土の生態系調査会

年度ごとに地域を特定して生物相や地質などその土地の自然を総合的に調査し、生物どうし及び生物と環境とのかかわりを解明することをねらいとしています。

調査員は広く県民から公募し、調査員と館職員とが一体となって調査をしています。この事業は平成4年に開始し、今年で5年目になります。この間、県本土中央部に位置する始良郡を流れる「別府川の自然」を調べよう（平成4～5年）、「南薩の海岸」を調べよう（平成6年）を実施しました。

現在、「霧島の山」を調べよう（平成7～8年）ということで、霧島の新湯温泉と栗野岳温泉付近の噴気地帯の生態系について植物・昆虫・鳥・土壌動物・地質の各班に分かれて調査しています。調査後は、調査員を中心に調査研究の成果を冊子にまとめ、県下各小中学校、高校や社会教育機関等に配布して、自然への親しみを一層促すことをねらいとしています。



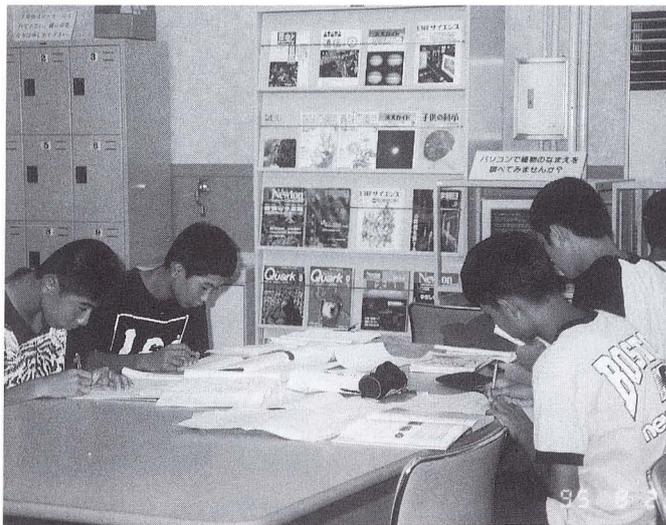
郷土の生態系調査会調査風景

(4) 学習情報室の利用促進

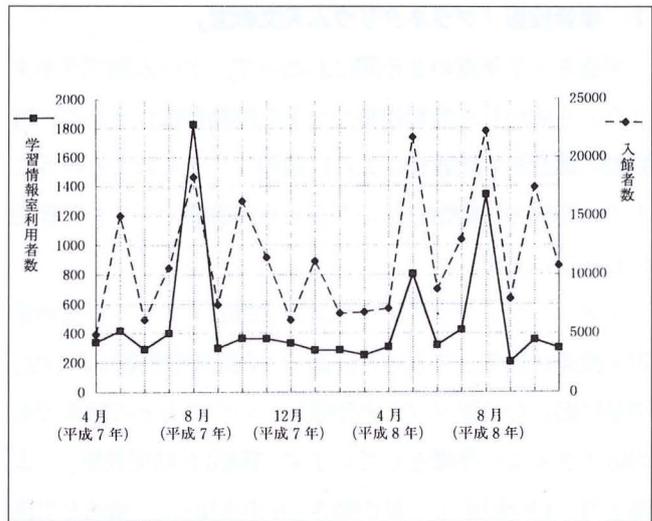
多様化・高度化した県民のニーズに合った的確な情報を提供するとともに、自然や科学に関する生涯学習の場として、平成6年度に開設しました。

当館の収蔵資料だけでなく、県内外の教育・研究機関や博物館等はもとより、県民一般からも収集した資料等に関する情報を迅速・的確に提供できるように、文献・ビデオ等の映像資料の作成・整備、さらに、顕微鏡などの観察機器、検索用コンピュータを整備しました。また、一層学習情報室の利用が促進されるように細やかな広報活動に力を入れています。

今後、自然科学への知的好奇心を刺激し、創造的で探求的な学習を支援する生涯学習施設としての博物館になるよう、最新のマルチメディア関連の技術を活かした情報提供システムを構築し、レファレンス等に迅速に対応できるようなデータベースの蓄積を検討しています。



学習情報室の利用風景



入館者数と学習情報室の利用数

3. 常設展示のリニューアル計画

県立図書館の建物を改装・移転して16年が経過し、展示資料で、時代にそぐわないもの、新知見によって学術的に不都合な展示、退色・劣化が著しく新鮮味のない展示等が増加してきましたので、平成8年度に常設展示を一部リニューアルすることになりました。

- 改装する部分 2階常設展示場
 エントランスホールおよび階段部分
- 改装面積 550㎡ 50㎡

a) 改装の基本的考え方

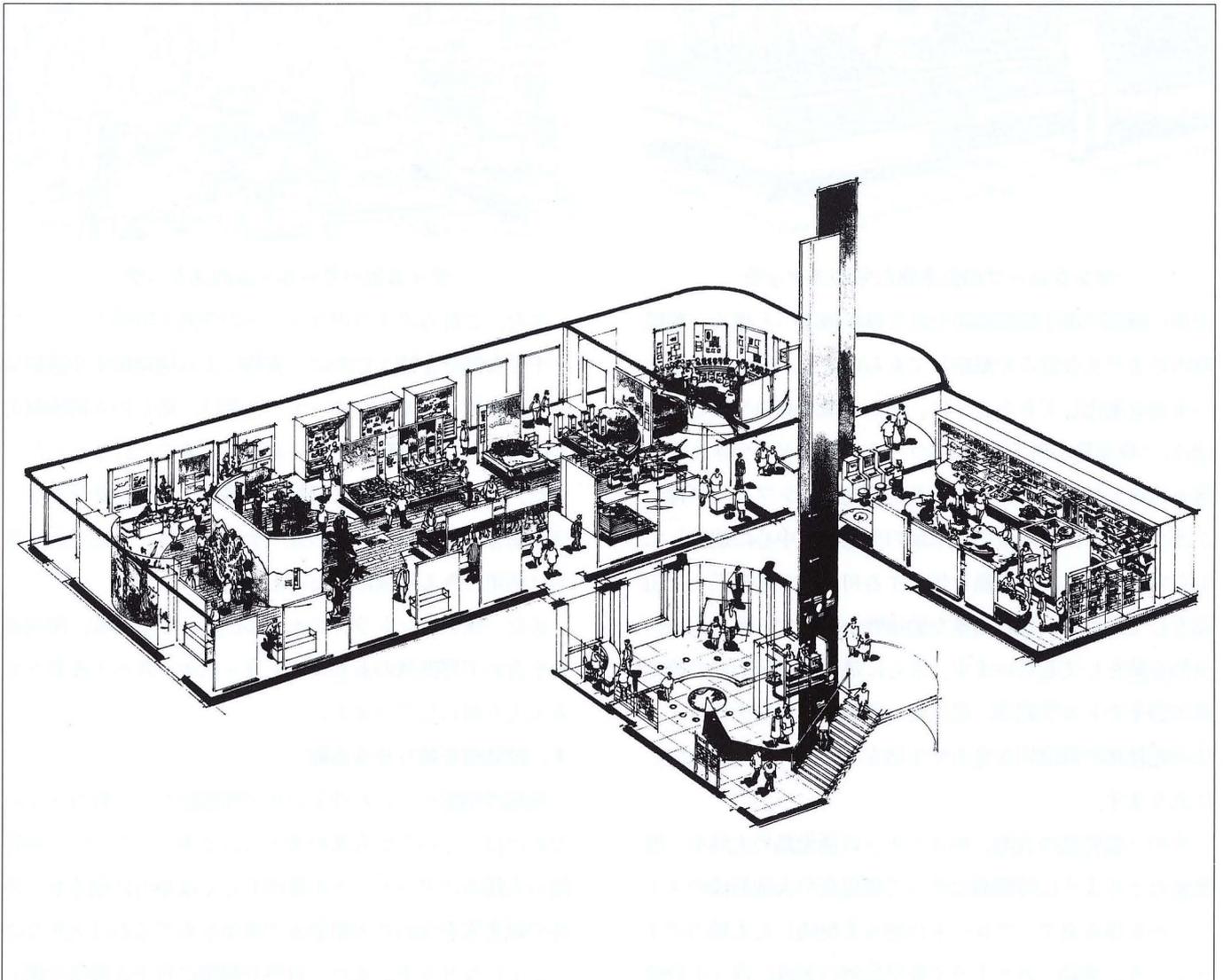
現在の自然史総合展示室（3室に分離している）を改装します。展示構成としては郷土の自然をテーマとしてストーリー性とアクセントのある展示になるように工夫しています。また、分かりやすく五感に訴える楽しめる展示に改

装します。特に、当博物館は旧図書館のため天井が低く、展示面積も狭いために蓄積した情報をどのように提示し紹介するかに力点を置いて検討しました。

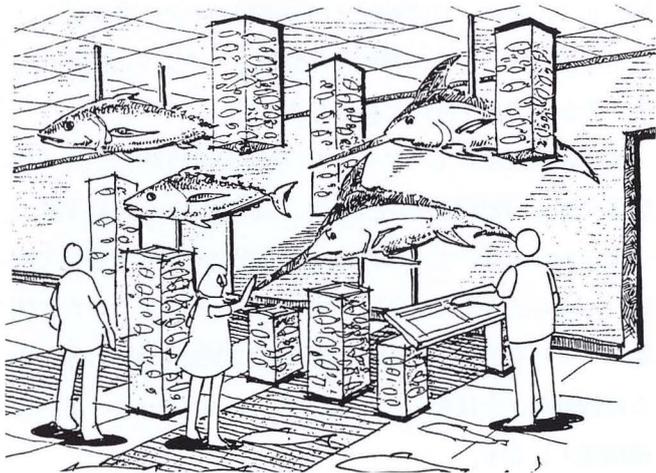
展示の構成はメインテーマを「鹿児島島の自然」とし、「鹿児島島の海」、「鹿児島島の川と湖沼」、「鹿児島島の山」、「鹿児島島の大地」の4つのコーナーに区分して鹿児島島を旅する感覚で観覧してもらえるように工夫しています。そして、さらに体験コーナーを備え、子供たちを中心に参加体験型で楽しめる博物館造りを目指し、一部をディスカバリールームへと模様替えます。

b) 展示の概要

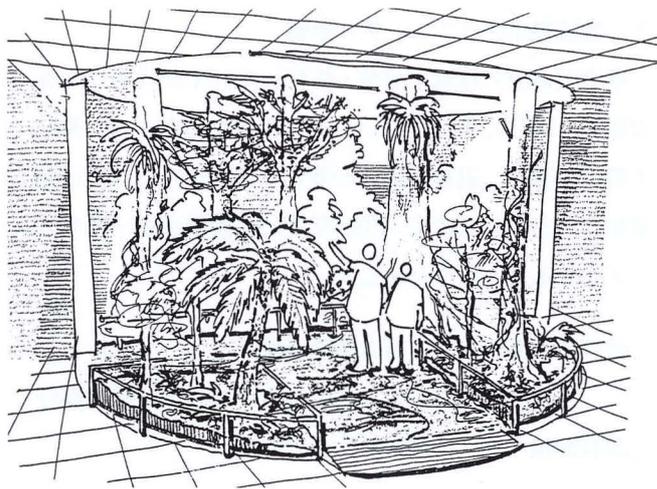
今回の展示改装は、黒潮の流れに乗って南から北へとフィールドを旅をするように、図に示すような展示ストーリーで構成しました。「鹿児島島の海」のコーナーは、黒潮の流れの中に観覧者が回遊する魚とともに入り、太陽の光がま



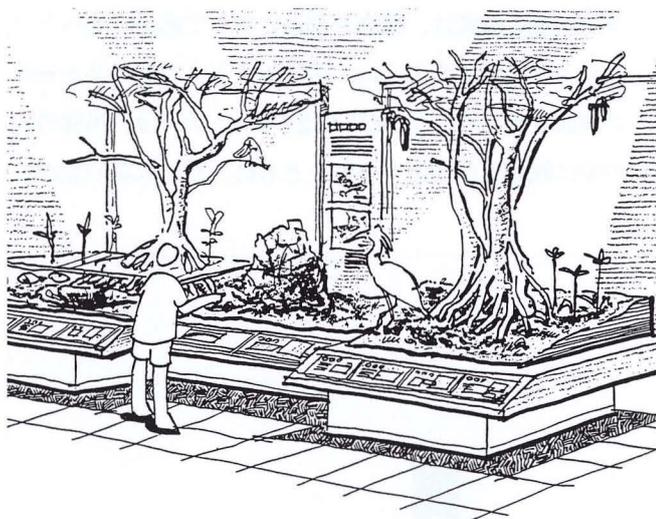
展示改装される部分の鳥瞰図



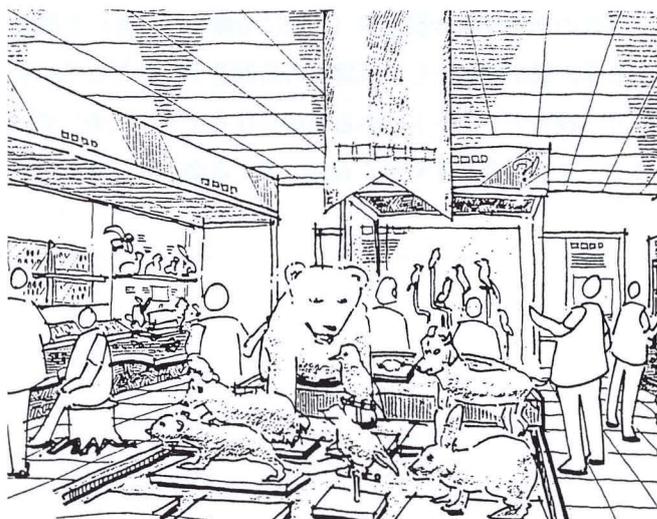
黒潮に生きるのスケッチ



東洋のガラパゴスのスケッチ



マングロープの生き物たちのスケッチ



ディスカバリールームのスケッチ

ばゆい珊瑚の海や岩礁海岸を経て砂浜海岸へと進み、動植物のさまざまな営みを観察してもらいます。海中から陸上へ生命は進化してきたように、豊かな海の恵みを感じつつ進み、「鹿児島島の川と湖沼」のコーナーにたどりつきます。海と河川との境界部分にある奄美大島のマンブローブ林のジオラマでは、亜熱帯の汽水域の生態系を中心に観察してもらい、さらに、鹿児島を代表する川内川の生態系と火山湖として誕生し、現在貴重な動植物が息づく蘭牟田池の自然を旅してもらいます。さらに進むと奄美大島の原生林の様子やトカラ列島、屋久島、霧島と鹿児島を代表する山の動植物の垂直的な分布や生態を示した「鹿児島島の山」に入ります。

次の「鹿児島島の大地」のコーナーは鹿児島の大地を、歴史をたどるように時間軸にそって鹿児島の大地形成のストーリーを組み立て、プレートの動きを反映した大地のダイナミックな活動、カルデラや鹿児島湾の形成に伴う火砕流の噴出、桜島の活動などを紹介します。

また、これらの4つのコーナーの空間と時間のツアーで不十分な部分を補うために、実物による情報検索や触察等の五感を使って楽しむコーナーを設け、楽しめる博物館造りの目玉として詳覧コーナーを特設することにしました。また、このスペースには博物館と観覧者のインタラクティブな情報提供の場としてのコーナーを設け、入館者が主体的に活用できる場所にしたいと考えています。

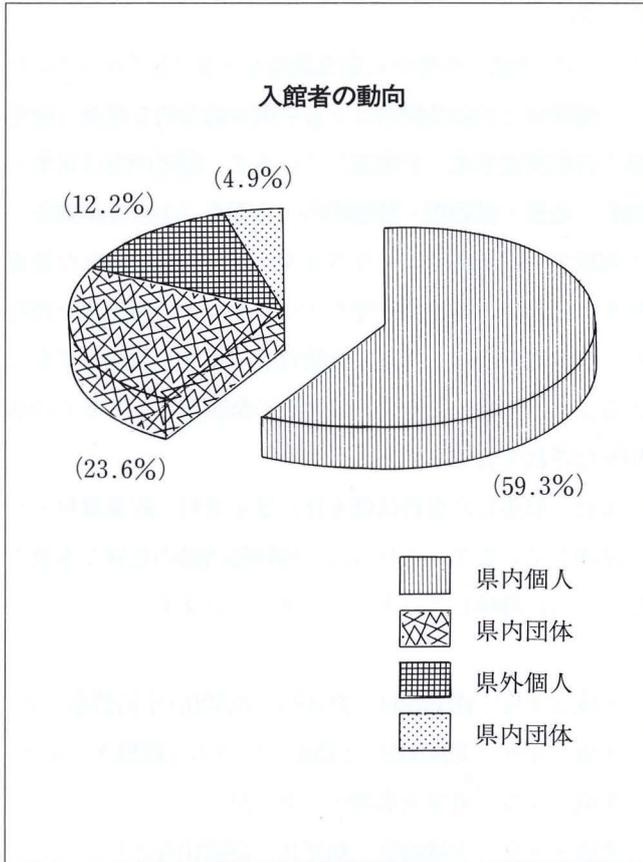
また、狭いエントランスホールに広がりを見せ、階段部分を含めて雰囲気のあるエントランスホールへと変身させる工夫を凝らしています。

4. 博物館を甦らせる活動

地域博物館が、いわゆる旧来の博物館からの脱却をするためにはいろいろな方策が考えられます。その一つが博物館の入館者のターゲットを県内もしくは地方に絞るか、県外の観光客を含めた入館者まで照準をあてるかは大きなポイントになります。また、自然や環境に対する興味や関心の高まりに併せ、博物館が自然に関する調査研究や資料収

集に努めることは大切な役割です。

さらに、県民のニーズにあった参加型の事業をいかに企画し展開するかは、生涯学習時代の中核施設としての今後の博物館に課された大きな課題の一つです。



入館者数の地域別・個人や団体の割合

1) 広報活動の推進

広報活動を大いに進めることも博物館活性化への足掛かりとなるものと確信して多くの機会をとらえて広報することを心がけています。広報に関してはいくつかのルートを利用し継続的にタイムリーに県民にアピールしています。

2) 博物館カレンダーの作成配布

当博物館の入館者の利用状況は、県内の入館者数が約8割を占めているので県内の方を対象とした事業を中心に展開しています。

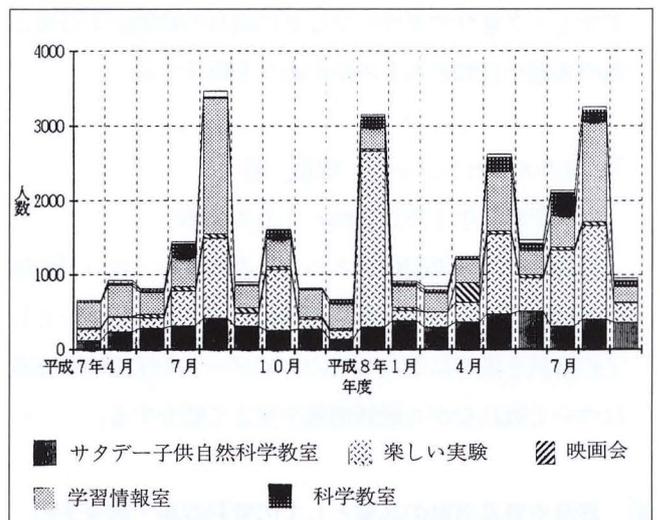
しかし、今後県外の観光客を一層誘致できるような施設として、鹿児島島の自然の紹介の充実を図るとともに広報活動にも継続的な努力をしています。その一助として、平成6年度から県外団体客を増加させるべく博物館の行事を網羅した自作の年度カレンダー等を作成し、このカレンダーを旅行業者や前年度修学旅行等で利用してもらった学校や職場へ配布し、博物館利用の促進を図っています。



博物館カレンダーの1ページ

3) 自然に親しむ道しるべとしての事業や企画展の開催

最近の博物館利用者の傾向として、教育普及活動に積極的に参加される方々が増加してきています。当然のことながら展示を見学することのみを目的に来館されたかたとは大きな違いがあります。博物館では展示見学のみの来館者と積極的な利用者との格差を縮め、自然に親しむ導入口としての事業を企画し展開しています。子どもたち向けで、来館者がその場で参加できる土曜・日曜に実施している「楽しい実験」、子どもや一般向けの「博物館映画会」などがそうです。また、事前に申込みを必要とする「博物館科学教室」、「サタデー子ども自然科学教室」、「生涯学習県民大学成人講座」などを実施しています。このような事業の展開で参加を促すことは博物館リピーターを増加させることにつながると同時に、自然に親しむ心を育み自然環境に対する観察力の育成などに大きな役割を果たすものと考えています。



自然に親しむ導入事業の実績

また、リピーターを得るためには魅力的な特別企画展を企画することも極めて大切と考えています。本年度当館が行っている特別企画展のねらいと実施状況は次のとおりです。

「いのちのカプセル 卵」展

☆ 平成8年4月21日(日)～6月30日(日)

☆ 参加人数 (16,941人)

・私たちの食生活になじみ深い卵を素材とし、さまざまな生き物の卵を紹介し、卵への関心を高めると同時に、種族維持の原点であり、かつ生命創造の出発ともいえる卵の生物学的意義を再認識する場を提供する。

「貝の世界—その不思議な魅力—」展

☆ 平成8年7月14日(日)～9月29日(日)

☆ 参加人数 (23,002人)

・貝は古くから食べ物としてだけでなく、美しい宝石のようなものとして人々の心をとらえ、貨幣・装身具・美術工芸品などに利用されてきている。このような貝の持つ妖しい魅力を紹介する。

「緑なす徳之島の自然」展

☆ 平成8年9月19日(土)～12月26日(日)

☆ 参加人数 (7,652人 10月31日現在)

・平成7年度に実施した「鹿児島県の自然調査事業」の調査研究の成果を中心に、自然にあふれる奄美の島々の自然、とりわけ魅力的で琉球列島の中では古い時代の岩石からなり、亜熱帯性の温暖な気候に育まれた植物とアマミノクロウサギやハブなどの固有の動物がすみ徳之島の多様な自然と人とのかかわりを紹介する。

「宇宙のメッセンジャー 彗星」展

☆ 平成9年1月17日(金)～4月24日(日)

・百武彗星や今世紀最大といわれるヘール・ボップ彗星の地球接近にあわせ、宇宙の情報のメッセンジャーとしての彗星を素材にこれまでのエピソードや学術的な意義について触れながら最新情報を交えて紹介する。

理的環境もあり、多様な自然に囲まれています。この条件を活かして、博物館活動の重要な柱である資料収集・調査研究では、渡瀬ライン周辺(トカラ列島など)の動物・植物地理的分布的調査と資料収集を継続的に実施していることです。

さらに、平成5年度から鹿児島県を大きく5ブロックに分け、館職員と学識経験者による学術的総合的な調査「鹿児島県の自然調査事業」を実施しています。調査内容は気象・地形・地質・植物相・動物相の一次調査(主に文献調査)と現地での二次調査からなります。これらで得られた素資料や文献調査・現地調査等のデータをもとに報告書を刊行し、学校教育のみならず社会教育等の場でも利用してもらえるように配布し、鹿児島県の自然の解説書として多くの活用がなされております。

また、収集した資料は標本化し展示資料・収集資料として活用しています。これらは、博物館活動の重要な事業としてさらに継続していきたいと考えています。

平成5年度 南薩地区(野間岳、開聞岳・宇治群島など)

平成6年度 北薩地区(下甑島、川内川、間根ヶ平など)

平成7年度 奄美大島地区(徳之島)

平成8年度 大隅地区(稲尾岳、高隈山など)

平成9年度 熊毛地区の予定

(主任学芸主事 小倉 順)

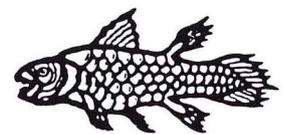
美術

はく製

〈各種生物〉

剥製・骨格標本・レプリカ

加工/販売/リース



有限 東洋近代美術研究所

製作所 〒272 千葉県市川市本北方2-18-1 直通 ☎0473-37-5678

☎0473-37-5883

FAX 0473-38-1978

本 社 〒272 千葉県市川市国分5-3-25

☎0473-74-1564

4) 展示や普及活動の基盤としての資料収集・調査活動

鹿児島県は、日本列島南端で亜熱帯と暖温帯区という地

新しいインターネット・ホームページの開設動向

いま世界各地で Museumweb 狂想曲が盛んに演奏されているが、1996年9月末から10月の初めにかけて英国で開かれた英国博物館協会の年次大会で、博物館によるインターネットの利用に関して一つの指針が提起された。オックスフォード大学科学史博物館のように、HPを開設したことによって年間入館者が前年度に比べ2倍に増えたところもあれば、ロンドン国立自然史博物館のように、同館のHPのアクセス件数が毎月2万件（入館者は毎月12万人）があった、等の現況報告があった。しかし、アクセス件数だけで博物館の人気度を喜ぶのは如何なものかなという声も強かった。世界の博物館総覧のHP (VLmp) の制作兼管理者であるジョナサン・ボーウェン (レディング大学) は、館の収蔵品のデータベースをインターネットに載せることによって、利用者はもっと利用しやすくなるし、さらにそのことが館自身の認知活動の計り知れない可能性を示唆した。同大会では、オーストラリアからの代表が、世界で先駆けて同国の博物館がインターネットを用いた収蔵品データベース事業を開始したことを報告し、関係者の関心を引いた。

<イギリス>

BT Museum (London)

<http://www.telemuseum.se/omvarld/BTM>

Cole Museum of Zoology (University of Reading)

<http://www.cs.reading.ac/museum>

Natural History Museum (London)

<http://www.nhm.ac.uk>

Museum of the History of Science (Oxford)

<http://units.ox.ac.uk/departments/hooke/>

<イタリア>

Astronomical Museum (Bologna)

<http://www.boas3.bo.astro.itdip/Museum>

History of Science Museum (Firenze)

<http://www.galileo.imss.firenze.it>

Museum of the Physics (Inst. Physics of Naples)

<http://www.na.infn.it/Museum>

Museum of Natural History (Firenze)

<http://www.unifi.it/msn>

<オーストラリア>

Australian National Botanical Gardens

<http://www.osprey.erin.gov.au/anbg>

Macleay Museum (Univ. of Sydney)

<http://www.usyd.edu.au/su/macleay>

Macquarie University Museums

<http://www.lib.mq.edu.au/mcm>

<その他の国>

Royal Institute of Natural Sciences (ベルギー)

<http://www.kbinirsnb.be>

Pharmaceutical Museum (Charles Univ./チェッコ)

<http://www.faf.cuni.cz/history>

Natural History Museums (Copenhagen Univ./デンマーク)

<http://www.nathimus.ku.dk>

Technical Museum of Thessaloniki (ギリシャ)

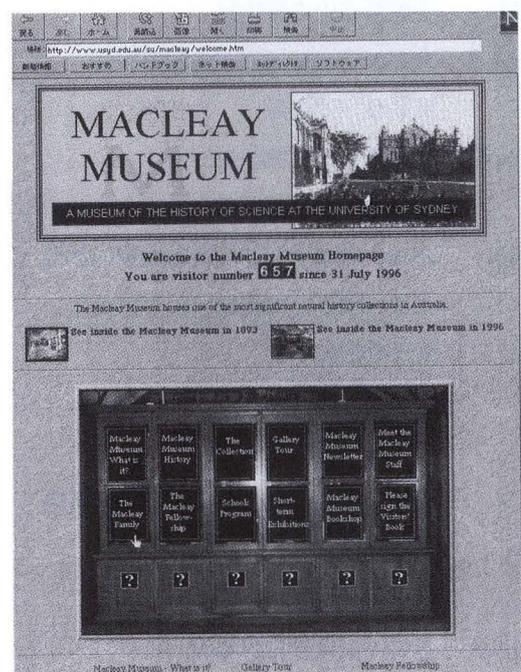
<http://www.uranus.e.athth.gr/THTH>

Israel National Museum of Science (イスラエル)

<http://www.elron.net/n-sci-museum>

Natural History Museum, Madeira Islands (ポルトガル)

<http://www.mmf.uma.pt>



* ハイフォン : fax. 03-3496-2416

e-mail. QFH03327@niftyserve.or.jp

— 全科協情報 —

「自然史標本資料のデータベースの標準化に関する調査」結果報告 その1 機関略号

平成8年6月26日(木)に行われた第1回「科学系博物館における標本資料データベースの標準化に関する調査研究委員会」の調査研究方針を踏まえて、標記調査を行いました。その調査対象は博物館および博物館相当施設の中で相当数の資料を保有する機関とし、その中から無作為に抽出した120機関に調査表をお送りしました。

11月20日現在、54機関から回答があり、34機関で40種類の機関略号が使われていることがわかりました。その調査結果は下記の通りです。この結果の例では、倉敷市立自然史博物館と北九州市立自然史博物館が同じ機関略号KMNHを使用しています。また、同一機関でも、国立科学博物館や大阪市立自然史博物館のように、分野毎に独立した機関略号を使用している所もあります。

この調査の目的は、データベースの標準化を進めていく上で、機関略号使用の実情を明らかにするとともに、同じ機関略号の使用を避け、また新たに使用する機関に略号決定のガイドとなるようなルール作りを進めることにあります。

機関略号	機関の名称
CBM	千葉県立中央博物館
FAKU	京都大学農学部附属水産実験所
FM	福島県立博物館
FMNH	福井市自然史博物館
GF	福岡大学理学部地学教室
GIUM	茨城大学理学部地球生命環境科学科
GK	九州大学理学部地球惑星科学教室
GPM	岐阜県博物館
HM	穂別町立博物館
ICM	飯田市美術博物館
IGPS	東北大学理学部地質学古生物学教室
INM	茨城県自然博物館
KCM	熊本市立熊本博物館
KMNH	倉敷市立自然史博物館
KMNH	北九州市立自然史博物館
KOCH	高知大学理学部生物学科
KPM	神奈川県立生命の星・地球博物館

LBM	琵琶湖博物館
MCM	三笠市立博物館
MES	三重大学教育学部地学教室
MFM	瑞浪市化石博物館
MSM	東海大学海洋科学博物館
NHMTU	東海大学自然史博物館
NIPR	国立極地研究所 隕石資料部門
NSM	国立科学博物館 植物研究部
NSMT	国立科学博物館 動物研究部
NSMT	国立科学博物館 人類研究部
OCM	大船渡市立博物館
OM	大阪市立自然史博物館 昆虫
OMNH	大阪市立自然史博物館 動物
OMNH	大阪市立自然史博物館 地学
OSA	大阪市立自然史博物館 植物
TKPM	徳島県立博物館
TMNH	豊橋市自然史博物館
TNS	国立科学博物館 地学研究部
TPM	栃木県立博物館
UHR	北海道大学理学研究科地球惑星科学教室
WMNH	和歌山県立自然博物館
YCM	横須賀市自然博物館
YM	山口県立山口博物館

機関略号を作成するときには以下の文献をご参照ください。1.は魚類と両生・爬虫類の標本を、2.は植物標本を保管している機関に関する略号を扱った文献です。

1. Leviton, A. E., R. H. Gibbs, Jr., E. Heal and C. E. Dawson. 1985. Standards in herpetology and ichthyology: Part I. Standard symbolic codes for institutional resource collections in herpetology and cithyology. *Copeia*, 1985(3): 802-832.
2. Holmgren, P.K., Keuken, W. & Schofield, E.K. 1981. Index herbariorum. Part I. The Herbaria of the world, ed. 7. *Regnum Vegetabile* 106: 1-452. ISBN 90-313-0478-6. Distributor: Libresso Distribution Center, P.O. Box 23, 7400 GA Deventer, The Netherlands

情報G7パイロットプロジェクト第3回事務会議

情報G7パイロットプロジェクト「電子博物館・美術館：世界文化遺産へのマルチメディアアクセス」第3回事務会議が平成8年9月30日～10月1日の2日間、イタリア・ローマで開催されました。このプロジェクトは、ナポリサミットでの合意を受け、昨年2月ブリュッセルで開かれた閣僚会議で決定された11の国際共同プロジェクトの1つです。今回の会議は、各国の進展状況を持ち寄るとともに、プロトタイププロジェクトの作成に向けて具体的な方策を立て、それを進めることが目的でした。ドイツを除くG7各国と、オブザーバーとしてスイスとバチカンが出席しました。日本からは文部省社会教育課長・長谷川氏を代表に、文化庁2名、郵政省3名、通産省1名と私の計8名が参加しました。会場は、きれいな中庭のあるイタリア文化環境省付属資料センター(ICCD)で、各種データをコンピュータに入力する作業を行っている機関です(写真)。

会議では、主催国イタリアおよびフランスによる趣旨説明の後、意見交換を行い、現実的な成果を早急に実現すべきであるとの意見で一致しました。具体的には、4つのワーキンググループを設置すること、インターネット上にサーバを設置すること等が、合意されました。4つのワーキンググループはそれぞれ、(1)デジタル化や多言語コミュニケーションのための基準、(2)著作権や平等な利用法、(3)技術開発、(4)テストとアプリケーションについて検討を行い、来年春の会合までに中間報告をまとめます。ネットワークサーバ上では、参加各国の意見交換を行い、合意事項・成果を公開するとともに、将来的には、プロジェクトのデモ

を行っていくことになりました。このサーバは来年早々に立ち上げる予定です。現在までのレポートは ICCD のサーバ(www.iccd.ministerobbcc.it/g7/)で見ることが可能です。

また会議の中で、フランスの Aquarelle、アメリカの CHIO、イタリアの Hypermuseum 等、各国が取り組んでいるプロジェクトが紹介されました。日本からは、文化庁の文化財情報システムや郵政省の通信放送機構リサーチセンターの紹介がホームページやビデオを使って行われました。

2日間の短い期間でしたが、情報の電子化やそれに関する研究・開発が想像以上に進んでいることが感じとれ、たいへん有意義な会合でした。対象を美術・文化財としているため、科学系の博物館とはまだ直接関係しませんが、共通する多くの課題が検討されていくと思われます。

(国立科学博物館 理工学研究部 米田 成一)



会議の行われた ICCD の建物

感動環境 創造会社です。

NOMURA

株式会社 乃村工 藝 社
本社：東京都港区芝浦4-6-4・電話03-3455-1171(代) 〒108

営業種目/ディスプレイおよび建築の調査・コンサルティ
ング・企画・設計・デザイン・プロデュース・演出・制作施工

Practical Specimens for Study of Earth Science

地学標本(化石・鉱物・岩石)
古生物関係模型(レプリカ)
岩石薄片製作(材料提供による薄片製作も受け賜ります。)

大英博物館/恐竜復元模型
縮尺：実物の40分の1 精密教育用モデル、大英博物館製作による刻印入

TEL 03-3350-6725

上京時にはお気軽にお立ち下さい。

(特に化石関係は諸外国より良質標本を多数直輸入し、力を入れておりますので教材に博物館展示等にぜひご利用くださいませ)



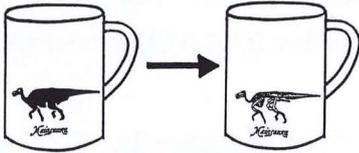
Fossils, Minerals & Rocks

株式会社 東京サイエンス

本社 〒150 渋谷区千駄ヶ谷5-9-2 イワノフネックスビル
TEL. 03-3350-6725 FAX. 03-3350-6745
ショールーム 紀伊國屋書店新宿本店1F TEL. 03-3354-9433

TOKYO SCIENCE CO., LTD.

恐竜マグ



あたたかい飲みものを入れると
骨格図にかわります!!

株式会社 アンティー

TEL 03-3467-6555
FAX 03-3467-6568

- * ミュージアム・ショップグッズの企画・製作・販売 (マグカップ、Tシャツetc.)
- * 特設売店の代行

〒151
渋谷区富ヶ谷1-17-9
パークハイム302



INTERIOR / EXTERIOR / DESIGN / EQUIPMENT
ONY KOBO CO., LTD.

東京都千代田区神田神保町2-40-5 東久ビル
TEL (03) 3221-1102(代) FAX (03) 3221-1185



動物園 / 水族館 / 博物館
企画・設計・施工



COLORATA

Venture Into The Past The Living Earth Communication For The Future

ミュージアムグッズの企画・デザイン

カラータ株 〒111 東京都台東区浅草橋4-6-8 西澤ビル3F
TEL03-3865-8110 FAX03-3864-4049

「全科協ニュース」を皆様の情報交換の場としてご活用ください。資料や情報の提供、標本などの借用希望、事業案内、ご意見、ご提案など皆様の原稿をお待ちしております。

編集後記

11月号の編集は、鹿児島県立博物館が担当しました。今回は、トヨタ博物館です。ご期待ください。

感じる科学

動刻

▲恐竜ロボット
ティラノサウルス



▲人体型ロボット
コスモ博士(信濃科学技術館)

文化施設・商業施設・ディスプレイ企画・設計・施工

kokoro 株式会社ココロ

〒205 東京都羽村市神明台4丁目9番1号
TEL0425(30)3911(代)・3939(営業)
FAX0425(30)3900・3927(営業)